

### 伝統の技を未来へ

しめ縄制作の初陣が出雲大社の大しめ縄で、右も左も分からない状態からのスタートでしたが、無事に終えられて感無量です。栄誉ある仕事ができ大変光栄に思っています。



林正知さん

平成30年4月から地域おこし協力隊。現在1年目。今回の大しめ縄制作では、中芯としめの子の制作を主に担当。

しめ縄は全てが手作り、同じものを作っても、作り手の個性が出ます。手作りだからこそ、そこが魅力ですね。  
技術を学びながら、しめ縄を使った商品開発もしています。ワラ細工もできますが、しめ縄にこだわって作っていきたくいです。多くの人に、しめ縄を身近に感じてもらい、また、職人の想いをつないでいける感性を磨いていきたいです。

日本古来の伝統文化・神事に携われたこと、特に出雲大社神楽殿の大しめ縄に携われたことはとても魅力でした。  
ワラの状態、力加減、燃り加減など、美しいしめ縄を作るにはいろいろなことに気を配る必要があつて、一筋縄ではいかないところも魅力的。腕が鳴るところであり、かつ難しいと思う所です。  
いろいろな大きさや形のしめ縄があるので、今後はそれらの制作技術もしっかり学び、棟梁を目指す意気込みで、この先もずっとしめ縄制作に携わってきたいです。

### しめ縄づくりの技と誇りを未来へ

テレビ、新聞、雑誌、ラジオ、インターネットなど、多様なメディアへの露出が増え、「飯南町のしめ縄」は、全国各地、そして世界にまで広がっています。昨年は、アラブ首長国連邦のドバイからの注文、来春にはスイスへの納品



那須久司さん

も予定されています。しかし、それは、日本の神社等の神聖なものではなく、インテリアとしての注文。しめ縄本来の意味とは違った形であることも事実です。  
那須さんは話します。「メディアへの露出が増えた今、全世界から注文がある可能性があつても、私たちは単なるしめ縄制作会社ではありません。私たちが受け継いできた伝統の技を大切に、これからも皆さんとの縁をつないでいきたい。」

石橋棟梁の「自分の娘を嫁に出すような気持ちで、一本一本丁寧につくっている」という言葉は、しめ縄づくりが単なる産業ではなく、「脈々と受け継がれてきた伝統技術と誇り」であることを表しているのだと思います。その想いは、次世代へと確かに引き継がれ、この町を代表する伝統技術を形作っていきます。



- 1 力を合わせて燃り合わせます
- 2 きれいな形に仕上がっていきます
- 3 つり木の取り付け
- 4 コモの表面を丁寧に仕上げる
- 5 緊張の中にも穏やかな空気が流れる
- 6 出発前。トレーラーに積まれた大しめ縄
- 7 しめの子の取り付けは寸分の狂いなく
- 8 飾り縄の取り付け
- 9 完成まであと少し
- 10 かけ替えられた新しい大しめ縄



安達美帆さん  
平成28年4月から地域おこし協力隊。現在3年目。今回の大しめ縄制作では、主に記録を担当。

苦勞を見てきた分、かけ替えが無事終わったときは思わず涙が出ました。  
しめ縄づくりに携わろうと思ったのは、子どもの頃、地域の公民館でお正月のしめ縄を作ったことや、高校の授業でしめ縄の制作をしていたことがきっかけの一つです。転職を考えていたとき、じつときました。

たち(子どもたち)に、この伝統技術を、誇れる技だということをもっと知ってもらいたい。しめ縄づくりの楽しさを、皆さんと一緒に伝えていきたいと思っています。観光は町の人の理解があつてこそ成り立つものですから。

### 大注連縄燃り合わせ記念行事にあたって

出雲大社宮司 千家尊祐

本日ここに、出雲大社神楽殿にご奉納いただく大注連縄の燃り合わせが完成を迎えられました。先ずもって心よりお祝い申し上げます。  
またこの記念行事には、三笠宮彬子女王殿下の御臨席を賜っております。

彬子女王殿下が総裁をお務めになられる「心游舎」は、『次世代を担う子ども達に、少しでも多くのよき日本文化の記憶を持ち、それを未来に伝えていくための場を再生すること』を活動目的とされ、出雲の歴史や文化を身近に感じていただくため、県内外からの参加者とともに、本日お成りくださいたい。ご紹介させていただきます。女王殿下には衷心より御礼申し上げます。

さて、注連縄奉納ご関係者をはじめ皆様方におかれましては、常日頃より大宮主大神さまへの崇敬の念篤く、注連縄のご奉納を連綿と受け継がれ、ご奉仕になっておられますことに、あらためまして深く感謝申し上げます。現在の注連縄は、昭和五十六年に、出雲大社が特立一〇〇年を迎えた折、現在の神楽殿として規模を拡張し建て替えられて以来、六本目でございます。その傷み具合によってかけ替え時期は異なりますが、この度は六年ぶり七度目のかけ替えとなりました。

神楽殿は本来、千家國造家の大広間として使用され、「風調

日本人は古来、自然万物との共存共栄の中で、あらゆるものに神を感得し、そのご加護に生かされる暮らしによって豊かな精神文化を培い、それらを目に見える形として具現し、受け継ぎ伝えることでさまざまな文化を育んできました。  
現在、出雲大社にてお仕えいたしております御遷宮は、悠久なる歴史の中で培われた祈りや心、そしてそれらを形として具現する技が融合して初めて成し遂げられるものであり、古来より神々を崇めてきました日本の文化を象徴するものでございます。

この度、六十年ぶりの御遷宮を迎え、大宮主大神さまの御力が新たな蘇りに結ばれた中、本日こうして大注連縄奉納に向けた燃り合わせをご奉仕戴きましたこと、皆様方へ受け継がれてきた精神も、大きな蘇りに結ばれたことと存じます。  
豊かな風土と精神性を保つ地域と共に、歩みを重ねられてきた皆様方が、これより後も益々お栄えになりますことをお祈り申し上げ、大注連縄燃り合わせ記念行事にあたってのお祝いの言葉とさせていただきます。